

第10回香川県がん診療連携協議会議事要旨

日 時： 平成29年8月31日（木）16:30～17:25
場 所： 香川県社会福祉総合センター7階 特別会議室
出席者： 別紙のとおり

議 事

吉野香川大学医学部医事課長から、配付資料の確認後、香川県がん診療連携協議会設置要綱第5条に基づき、本協議会会長の横見瀬香川大学医学部附属病院長（以下、横見瀬議長という。）が議長となり、本協議会議事進行する旨、発言があった。

議事に先立ち、横見瀬議長、久米川香川県医師会長から挨拶があった。

引き続き、横見瀬議長から第9回香川県がん診療連携協議会議事要旨について確認が行われ、原案どおり承認された。

1. 報告事項

(1) 第10回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会について

香川大学医学部附属病院腫瘍センター長 辻委員から、平成29年7月25日（火）に国立がん研究センターで開催された「第10回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会」について、以下の報告があった。

- ・がん登録部会：成育医療研究センターとのデータ共有、2008-2009年生存率集計の公表について
- ・情報提供・相談支援部会：「がん相談支援センターの相談対応体制と情報提供環境に関するアンケート」の中間報告ならびにそれに基づく今後の活動について
- ・緩和ケア部会：緩和ケアの質の管理、向上についての問題点・課題等について
- ・臨床研究部会：CRC教育ワーキンググループによるポータルサイト案の確定、「がん情報サービス」への導入についての説明
- ・奈良県立医科大学附属病院腫瘍センター長 神野先生からの報告より、県内の医療機関と連携した化学療法に関する専門職を育成するための組織「まほろば塾」を立ち上げ、ワークショップの開催、副作用評価・対策の統一化、化学療法医療チーム研修の開催に至るまで奈良県の試みについて
- ・都道府県レベルでのがん診療の質の向上を目指したPDCAサイクル確保の取り組みについて、PDCAサイクル確保の具体例について
- ・全体討議では「第3期がん対策推進基本計画案（案）」における10項目のがん医療

の充実について問題提起があり、今後のがん診療連携拠点病院における人材育成や人員配置、小児・AYA 世代に対する診療体制、緩和ケア研修会の受講などについての討議とがん診療連携拠点病院の指定要件についての意見交換が行われた。

(2) がん患者の就労支援、両立支援について

① ハローワーク高松からの報告

ハローワーク高松の王野職業指導官から、平成 28 年度新規に実施した長期療養者就職支援事業について以下の報告があった。

- ・長期療養者就職支援事業についてはハローワーク高松と病院が連携し、きめ細かな就職支援の実施を心がけている。
- ・実施状況について、全国では新規求職者 1,925 名、就職件数 905 件、就職率約 5 割となっており、ハローワーク高松の実績は新規求職者 54 名、職業相談件数 238 件、就職件数 5 件となっている。
- ・在職中、休職者に向けて退職せず留まることの指導が重要である。
- ・利用者は増加しており、広報の効果が出ている。
- ・平成 29 年度 4 月から香川県立中央病院、高松赤十字病院において、相談窓口を増設した。
- ・今後の目標は就職件数の増加、求人の確保、労働局と連携した県下のハローワークとの体制作り、事例・ノウハウの蓄積、就職後のフォロー体制の確立である。

横見瀬議長から全国の就職件数と比べ、香川県の就職件数が低い理由について質問があり、王野職業指導官より労働局の管轄規模に地域差があり、求人数の違いや新体制の充実度の違い、実施年度が早い地域もあり、香川県は昨年度開始であるためとの回答があった。

横見瀬議長から、各病院に一層の協力要請があった。

② 香川産業保健総合支援センターからの報告

香川産業保健総合支援センターの稲富業務課長から、事業場における治療と職業生活の両立支援のガイドラインについて以下の説明があった。

- ・平成 28 年度より啓発セミナー、事業場への個別訪問支援、相談対応、両立支援に関する個別調整支援等を実施している。

- ・ 社会保険労務士を昨年 7 月に両立支援促進員として委嘱した。
- ・ 事業場における治療と職業生活の両立支援のガイドラインにおける、事業場の事業者及び産業保健スタッフ等を対象に研修会を開催した。
- ・ リーフレットの配布及び会議等において周知活動を行った。
- ・ 6 月より香川労災病院において毎週木曜日、13 時～17 時両立支援窓口を開設し、医療ソーシャルワーカー 2 名が両立支援促進員として対応している。
- ・ 県内他のがん診療連携拠点病院にも両立支援窓口の開設を要請したい。
- ・ 病院の医療スタッフを対象とした両立支援の制度における出張セミナー等の依頼を受け付けている。
- ・ 制度促進において、ガイドラインの普及・啓発のため、事業場向けのセミナー、産業保健スタッフ対象の専門的研修を実施する予定である。
- ・ 事業場からの依頼に応じ、両立支援促進員が訪問し、管理監督者や労働者への教育における助言、支援行う。
- ・ 事業者、人事労務担当者、産業保健スタッフ等からのあらゆる相談に対応する。
- ・ 県内のがん診療連携拠点病院と連携をとり、患者労働者、事業者の依頼に応じて調整支援を行う。
- ・ 今年度より、県内で地域両立支援推進チームが設置され、両立支援連携のためのネットワークを構築し、活動する予定となっている。

香川産業保健総合支援センター所長である久米川委員から、相談なく退職するがん患者抑制のため、両立支援についての協力要請があった。

横見瀬議長からハローワーク高松との連携について質問があり、稲富業務課長から現在は行っていないが、今後は連携をとりたいとの回答があった。

(3) 香川県がん診療連携協議会各部会からの報告

① 地域連携・パス部会からの報告

青江部会長から、平成 28 年度の以下の成果報告があった。

- ・ 1 月 22 日に開催された香川県がんサミットの第 2 分科会におけるセッションを行った。
- ・ 患者療養情報第 2 版発行し、配布した。
- ・ 5 大がん地域連携パスの電子化について、ST-Net との協議について進展はないが、医師会が中心となって運用されている K-MIX+ と連携したい。

- ・ 5 大がんのパスの運用実績について、拠点病院別の実績についての報告。
- ・ がんの地域連携パス運用増加のために現行パスを使い易いものに見直し、電子ネットワーク化する。

② 院内がん登録部会からの報告

辻部会長から、以下の報告があった。

- ・ 実務者会及び研修会の開催状況について
- ・ 2015 年診断症例の登録件数について、初めて 7,000 件を超えた。
- ・ 2008 年診断症例 5 年相対生存率について

③ 相談支援部会からの報告

池田部会長から、以下の報告があった。

- ・ 相談支援部会実務者連絡会の活動、開催状況について
- ・ がん患者の相談支援等に関する意見交換会（平成 28 年 11 月 8 日）について
- ・ 香川県がん相談員交流・研修会について、第 5 回は平成 28 年 7 月 11 日、第 6 回は平成 29 年 2 月 11 日に開催した。がん専門相談員同士のつながりをつくり、個別の相談スキルを向上させ、県内がん相談の「質」の均てんかを図っている。
- ・ 長期療養者等に対する就職支援事業について、ハローワークとがん診療連携拠点病院が連携し、出張相談窓口を設置している。
- ・ がん相談支援センターPDCA 実施状況チェックリストを作成し、評価と目標設定を行う。
- ・ がん診療連携拠点病院間における相互評価実施要綱を作成し、平成 29 年度中に試験的に相互評価を実施する。
- ・ 平成 30 年度地域相談支援フォーラムの開催に向けて募集があり、応募した。

④ 緩和医療部会からの報告

細川部会長から、以下の報告があった。

- ・ 平成 28 年度緩和医療部会の取り組みとして、緩和ケア研修会の受講率アップ、医師以外の医療者の緩和ケア教育の推進を目標として掲げた。研修会修了者累計が 1,400 名を超えた。また、ELNEC-J の研修会は 2 回開催された。
- ・ 緩和ケアに関する研究会・セミナーの開催について
- ・ 平成 28 年度緩和ケアチーム活動実績について

- ・平成 28 年度緩和ケア病棟実績について
- ・平成 29 年度緩和医療部会の取り組みとして、拠点病院以外での教育・啓発活動を実施したい。

横見瀬議長から、緩和ケア研修会の開催について、研修内容等を拠点病院間で精査されているかの質問があり、細川部会長より研究会開催時に討議する機会があり、相互援助を行っているとの回答があった。

⑤ 研修・教育部会からの報告

辻部会長から、がんプロについて昨年度で第 2 期が終了したが今年の 8 月から第 3 期が始まり、がんゲノム、希少がん、小児 AYA がん、高齢がん等新しいプログラムが開始されるとの説明があった。平成 29 年度の取り組みとして、がんプロについては新しいコンテンツを作成する予定で集中セミナーの広報周知を積極的に行う予定との報告があった。

⑥ 情報・広報部会からの報告

辻部会長から、以下の報告があった。

- ・セカンドオピニオンの情報提供についてホームページにおいて提供し、ホームページをリニューアルした。
- ・緩和ケアマニュアルの改訂を行い、ホームページにアップしている。
- ・産学連携全国がんゲノムスクリーニングプロジェクト SCRUM-Japan の GI-SCREEN に参加し、がん治療におけるゲノム医療について新規取組を行っている。
- ・各拠点病院発行の広報誌、新聞掲載等の紹介

(4) 香川県より

香川県がん対策推進計画の見直しについて、香川県健康福祉総務課近藤課長から、今年度中に次期計画を定めるため、香川県がん対策推進協議会において 11 月に計画（素案）を示し、パブリックコメントの実施後、平成 30 年 1 月に計画案を示し、2 月の県議会に議案として提出する予定であるとの報告があった。また、第 2 次香川県がん対策推進計画の進捗状況について、がんによる年齢調整死亡率、がん検診の受診率、がんの医療の水準の向上、がん教育の推進状況等についての報告説明があった。

第 3 次香川県がん対策推進計画の骨子について、基本理念を「県民一人ひとりが、がんを知り、お互いに手をたずさえてがんと向かい合う香川県」とし、平成 30 年から平成 35 年までの 6 年間の計画とすることや、全体目標、個別目標についての報告があった。

横見瀬議長から、がん教育の推進が遅れていることより、各拠点病院に向上のための協力依頼があった。